「地球の顔」ニュース

公開No.28
責任者　佐藤 欣一

回覧確認欄

アイコク版ＥＭＳのサーベイランス審査

◆ 社長へのインタビュー（『トップインタビュー』より）

・祖父江の地で今後１００年胸を張って事業活動を続けるために、森上工場跡地に“憩いの広場”を建設し、近隣住民に開放したいと思っている。また工場を元のきれいな土地にもどした証として、ホタルをなんとか生息させたい。

・課題ラリーを通して、品質を良くする・生産性を上げる活動が活性化し、自然に成果が出るようになってきた。それは環境にもとってもいいことです。

・中国経済減速や航空機生産遅延などの外部課題は多いが、我社の強みを活かした技術開発を進め、受注拡大を推進している。

・このような状況の中でもＣＦの電力原単位がよくなっているのは、みんながたいへん努力してくれたおかげです。

・ＭＳ事業部の移動やＨＴとＣＦ事業部の統合により、環境ＩＳＯに携わる人が増えるので、より大きな成果が期待できる。

・パートさんがなかなか集まらない。パートさんを正社員へ登用する制度を設けたいと考えている。

◆ 審査を終えて評価されたこと

・「リスク及び機会」の“機会”を強みを延ばすものとして捉え、歩留り不良削減、予知予防保全の推進、付加価値製品の受注、ＥＶ車ギアの開発に取り組んでいる。

・環境に影響を与える緊急事態だけでなく、規格が要求している「環境に影響を与えない緊急事態」も各チームで特定が進み、全体で６件が決定されていた。

・法令順守は事務局が現場を定期ﾊﾟﾄﾛｰﾙするｽﾀｲﾙに変えた。担当者が変わり点検を忘れていた等の項目を早く発見し、大きなﾄﾗﾌﾞﾙになるのを防いでいる。

これらの取組みが進み、昨年に比べて格段に良くなった。改善の変化スピードが素晴らしい。品質改善を中心とした環境活動が推進され、改善が活発に行われており、各種目標を達成していた。

＜審査リーダーより＞

今回は改善提案（観察事項）を３件もらいました。事務局が対策区として是正活動を進めて行きます。

◆ 改善提案（観察事項）＝３件

１．不適合、ヒヤリの定義に関する件

環境規定では、不適合発生時は「不適合発生報告兼処置報告書」を発行することになっているが、“苛性ソーダ配管誤接続”などでは「環境ヒヤリ」が発行されていた。不適合、ヒヤリの定義を明確にしてどうか。

２．利害関係者との約束事に関する件

環境規定では、利害関係者のニーズと期待について規定しているが、守るべきものと関係ないものがあっても良い。ニーズ及び期待に対しては、やることを絞り込んで決めるというふうに見直してはどうか。

３．力量の評価内容に関する件

ＣＶＤ設備の力量評価は４段階で評価されていたが、劇物取り扱い職場であるにもかかわらず、その力量については評価されていなかった。劇物を取り扱う職場は、力量評価表に必要な項目を追加してはどうか。

審査コラム「審査で出合った、チョッとうれしいできごと」

その①　「油がこぼれたらどうするの!?」「拭けば大丈夫ですよ！」

設備に油を補充する際、誤ってこぼしたら社外に流出するのでは？審査員の質問に、「社外流出はあり得ません。拭けば大丈夫。何も問題ありません！」と答えてくれました。“環境重点設備”でなければ、環境に影響を及ぼす心配はないのです。

その②　「チームの自慢話を聞かせて下さい」

審査の最後に「チームの自慢話を聞かせて下さい」と質問されたチームがありました。自慢話＝強みです。強みを伸ばせば、環境が良くなり儲けも増えるのです。次回の審査では、自慢話をたくさん準備して下さい。

その③　雨水最終槽にメダカとタニシがいました！

山崎工場の雨水最終槽（工場内雨水側溝の最終出口）内部の確認時、メダカとタニシを発見しました。「アイコクさんすごいね。メダカで水質チェックしてるの？」と審査員がニッコリ微笑んでいました。